



2024.9月

田上心リハだより

田上心臓リハビリテーション病院情報誌 第11号

文責：大嶋 秀一



心臓リハビリテーション ～心臓血管病予後改善の補完的な役割から中核的存在へ～

2024年7月13-14日に神戸で第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会が開かれました。

この学会に当施設から4演題を発表しました。この学会は行くたびに参加者が増えており、特に理学療法士だけでなく医師や看護師の参加が増えている印象です。1995年第1回開催時の日本心リハ学会員は248名で、2023年には15738名（約60%が理学療法士、25%医師）と何と60倍に増加しています。その理由として、いろいろな学術知見の蓄積により心臓リハビリがいかに心臓の予後改善に寄与するかが明確になってきたからだと言われています。

図1に示すように、6分間歩行で300m以上歩けること（歩行速度1.0m/s）がADL(日常生活動作)を自立させ、入院リスクや転倒リスクを低減させ、Fritsらは意識、体温、呼吸、脈拍、血圧に加え歩行速度が第6のバイタルサインであると提言しています。6分間で300m以上歩けるためには、入院中だけでなく外来・リハ施設でのリハビリの継続が重要であり、そして第三の老化と言われるフレイル（虚弱）を予防あるいは改善させることがとても重要です。心臓リハビリは心血管病の予後改善に対して、補完的役割から中核的存在にシフトしています。RehabilitationはRe + Habilis（尊厳ある人生を回復する）が語源であり、そして患者さん個人に合わせたリハビリが必要であり、そのために私たちリハビリ従事者は的確で幅広いスキルを身につける必要があります。

参考：和泉 徹先生ご講演 日本心臓リハビリテーション学会設立30年、そして次の展開

図1 歩行速度は第6のバイタルサイン



バイタルサイン（生命兆候）：意識、体温、呼吸、脈拍、血圧

Fritz & Lusardi, J Geriatric Phys Ther 2009



文責：大嶋 秀一

第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会

「当院の心臓リハビリテーションの現状と課題」

演者：那須 信久

「慢性心不全・サルコペニア・カヘキシアに重度の抑うつを呈すも、包括的な介入により退院が可能となった症例」

演者：村田 憲誠

「アドヒアランス不良の症例に対して包括的アプローチ介入の限界と課題」

演者：東 勇助

「待機的心臓手術後回復期前期リハビリテーション終了時の嫌気性代謝閾値に影響を及ぼす因子の検討」

演者：荒木 直哉



2024年7月13日(土)～14日(日)
神戸国際展示場・神戸国際会議場
設立 政経
徳島大学大学院国際健康学系 健康科学科(19号)

熊本県心臓リハビリテーション推進事業

現在、県内の関連医療機関・施設が中心となり熊本県心臓リハビリテーション推進事業として外来心臓リハビリテーションの普及・啓蒙活動に取り組んでいます。

当院もその活動に賛同し、大嶋院長をはじめ当院スタッフが3名メンバーとして参加しています。

今回推進事業が作成した、外来での心臓リハビリ紹介チラシを当院受付に設置していますので是非ご覧ください。

また、事業についての詳しい取り組みについてはHPをご参照ください。

熊本県心臓リハビリテーション推進事業

URL : <https://no-shin-kumamoto.com/rehabilitation>

QRコード



院外での活動について

令和6年8月7日
場所：熊本城ホール
地域連携セミナー

当院大嶋院長が
座長として参加しました。



表面でもお伝えしていますが、学会内において一般演題では、口演2名+ポスター発表2名行いました。那須PTが口演セッション内にて優秀演題に選出されました。



診療時間

■月～金曜日/9:00 - 17:30 昼休み 12:00 - 12:30

■土曜日 /9:00 - 12:00 土曜日の受付は12:00迄

※心療内科は田上理事長診察日(火・水・木)での対応

■休診日 /日曜日・祝日・土曜日午後

※急患はこの限りではありません。来院前にお電話ください。HP:tanoue-heart-reha.com

病院情報

〒860-0842

熊本市中央区南千反畑町10-3

TEL:096-354-5885 FAX:096-354-5889

E-mail:info-tanoue@orion.ocn.ne.jp

QRコード



編集後記 日に新たに また日に新たに

蒼天を見よ

うっとり梅雨が明けたら次は連日猛暑で寝苦しい日が続いています。七月二十八日よりパリオリンピックが開催され、若者たちの躍動、うれし涙や悔し涙を見て励まされているのは私だけではないと思います。スポーツ選手に限らず、苦しい時に親や師から受けた教養は生涯自分の支えになるものです。

「苦しい時には蒼天(そうてん=青空)を見よ」

秋月藩の執政白井亘理(うすいわたり)は西洋式兵術を導入しようとして攘夷派の反発を買い失脚してしまいます。「父はあるいは殿のご不興をかってしまったのかもしれない。しかし、父は誤ったこともやまじきこともなしてはおらぬ。父の心事は常に雨が過ぎ晴れ渡った空の如くだ。そのことを忘れるな。もし、わたしがいなくなったら後、苦しいことがあれば蒼天を見よ。父はあそこにおる。」暗殺される前の晩、亘理は長男の六郎や娘のつゆに自らの生き方を託そうとします。

私は歴史小説、特に武家ものが多い葉室麟(はむろりん)さんの本を好んで読んでいます。武士の志を曲げない生き方、親子の絆、友情、夫婦愛等ストーリーの面白さとともに珠玉の心に沁みる言葉に清々(すがすが)しい気持ちになります。冒頭の「苦しい時は蒼天を見よ」は「日本最後の仇討ち」という実話を題材とした「蒼天見ゆ」の一節です。この小説は筑前秋月藩執政白井亘理の息子六郎の話です。幕末、幕府軍が鳥羽伏見の戦いで敗れ翌年は明治維新を迎えよう時期に、父親の亘理は時代遅れの攘夷派に妻とともに暗殺されてしまいました。その時幼かった六郎は復讐を固く誓います。ここからの六郎の半生が描かれています。

明治6年仇討禁止令発布により、武士の世では美德とされていた仇討ちが禁じられてしまいます。生き方に迷い上京した六郎は、剣客山岡鉄舟に師事し、時代にあがいがいながら見事に信念を貫きます。自分の信念であった両親の仇討ちが成就しても六郎には青空は見えませんが、服役を終え故郷の九州に帰り、どこまでも吸い込まれそうな蒼穹(そうきゆう)を見た時、六郎は急に涙があふれてきます。「そうか、蒼天は故郷の上にあったのだ。生き方に悩み苦しんだならば、故郷に戻り、空を見上げればよかったのだ」。「蒼天を見よ」六郎は父親の声が聞こえたような気がしました。

「蒼天を見よ」、とは、いかなる苦労があろうとも、(自分が正しいと思うことを続けられれば)必ず頭の上に青空が広がることを忘れるな、という教えです。心に沁みる言葉です。

文責 大嶋秀一

医療法人 社団 大玄会

田上心臓リハビリテーション病院

TANOUE CARDIAC REHABILITATION HOSPITAL